

# 事業所向け 放課後等デイサービス自己評価表

きらきら

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			プレールーム18畳(おもちゃコーナー)約30㎡(ピアノ・ロッカーコーナー) 学習室:男子更衣室 静養室:女子着替え 感覚統合室(ボールプール・トランポリン)ベランダ(プール遊び、球技、スケートボード他)
	② 職員の配置数は適切であるか	○			児童発達支援管理責任者1名 保育士3名 児童支援員1名
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	階段には手摺はある。車いす利用者の場合職員で、抱きかかえ事のできる人や一階のスペースはバリアフリーのため活動ができるよう改善していく。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			月2回の全体ミーティング 業務前後にミーティングを行う。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者、利用児には年一回要望書を提出してもらっている。それを基に計画の見直し、業務改善につなげている。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページで公開しているか			○	今後公開する。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			集団指導監査に置いて指摘事項の業務改善を行っている。
	⑧ 職員の質の向上を行なうために、研修の機会を確保しているか	○			社外研修の研修報告会を行い情報の共有、共通理解を行う。
適切な 支援の 提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者と面談し作成 それを基に課題分析し個別支援計画に落とし込み意図的、計画的な支援に結び付ける。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			標準化されたアセスメントでは図れない場合は障がい用に特化したアセスメントツールを工夫してアプローチする。
	⑪ 活動のプログラムの立案をチームで行っているか	○			事業計画を立て、週間プログラム、日案などチームで立案者が計画を立てチームで取り組む。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			活動プログラムが固定化しないために、子ども達の成長・要望を図りながら工夫する。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日は学校や家庭との連携を密に行いその時々の課題を設定し、長期休暇は生活のリズムが保てるように日頃できない活動内容をプログラムを工夫している。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別支援計画の短期目標は日案のなかで達成できるようにする。集団活動:外部講師のカリキュラムは週案で計画。日案のなかでのプログラムも工夫している。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援開始前は学校へのお迎えの時間や利用児やスタッフの配置の確認、日案の活動準備の確認などがある。毎日 タイムスケール表確認できるようにしてる。

	①⑥	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後は、送迎後の家族からの引継ぎ事項、気になる事、個別支援の記録など報告、記録する。	
	①⑦	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		支援に関する記録は、個別支援目標に添った観察記録になるようにして、モニタリング月で検証・改善につなげていくようにしている。	
	①⑧	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		モニタリングは支援開始前後の時間を工夫している。サービス計画とリンクできるようにしている。	
	①⑨	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○		以前からの取り組みから(治療教育 療育)ガイドラインの趣旨に共通する支援を継続的に行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②⑩	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		サービス担当者会議には基本的には児童発達支援管理責任者が担当者と同行し参加している。	
	②⑪	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		情報提供や連携は連絡帳の統一(学校、家庭放課後等デイ)保護者は一連の流れが分かるように工夫している。連絡帳の統一がなされてなくても学校側も放課後デイの連絡帳を確認できるようにする。緊急連絡網に添ってトラブル発生時の対応を行う。	
	②⑫	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、主治医等と連絡体制を整えているか		○	医療ケアが必要な子どもを受け入れる体制はある。	
	②⑬	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	移行計画書はあるいは情報提供書を頂くことはある。
	②⑭	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報提供する等しているか	○		相談支援事業所、放課後等デイサービスとともに情報提供書を作成し、これまでの経緯も含め引継ぎの会議も必要に応じて行う。	
	②⑮	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	特に受けていない。
	②⑯	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	長期休暇や土曜日などに公園外出で交流がある。障害のない子供との活動ができるようにしていきたい。兄弟姉妹で長期休暇の場合預かり活動に参加することはある
	②⑰	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			(地域自立支援)那覇市要保護児童対策地域協議会など積極的に参加している。対象の児童が利用している。
	②⑱	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			保護者からの要望書、緊急時の対応での連絡できる関係を構築、送迎時での引継ぎなどを密に行い共通理解できるよう工夫している。
	②⑲	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	○			家族の提言(強度行動障害実地研修)などの発表を機会に先輩保護者と情報交換し共通の悩みなどを話し合うことが出来る。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		重要事項説明など契約時、支援内容の変更受給者書の変更時などに説明している。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者の悩みや困り感などは送迎時にキャッチしその内容によっては持ち帰り支援会議に持ち込む。同時に行政や学校の力が必要な場合は相談支援事業所に繋げていく。保護者との面談や電話での対応もある。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	平成30年度初めての保護者親子レク、懇談会を設けたが好評であった。保護者からの要望で今後も保護者会活動の支援、懇談会などを改善目標にしている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情受付は児童発達支援管理責任が行い、説明責任者は管理者が行うようにしている。それでも苦情がある場合には県社協内にある運営適正化委員会に紹介する。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		「今月の予定」として毎月会報を発行している保護者向け研修などがあるとその都度配布している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	○		契約書の中必要最低限の範囲において個人情報を使用することに
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		コミュニケーションの手段を確立のために、その特性や成長を加味しアプローチする。クレーン現象や絵カード、指文字、コミュニケーションボード、保護者や学校の先生と共通理解できるようにする。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		法人の社会貢献活動でジンバブエ共和国ジャナグルアートセンターのコンサートを企画し地域保育園・老人施設、障がい児者事業所等
非常時などの対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○	年2回の避難訓練を行っている。緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアル策定出来ていない。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年2回の避難訓練を行っている。
	④①	虐待を防止するため、職員研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		社内研修で勉強会を行った。研修会にも参加している。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		強度行動障害に関しては保護者に事前に十分に説明し理解を得ることはあるが、サービス計画に記載する事はまだない。関りを深めることで、アプローチで改善していくことがある為。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	これまで、医師の指示書を必要とするケースがない。受け入れの際には検討する。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	ヒヤリハット事例集を作成し内容を理解する。日常生活・遊びの場などの点検は毎日行う。